

岡病防第1号
令和6年4月8日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について
病虫害発生予報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

令和6年度病虫害発生予報第1号

令和6年4月8日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	並	やや多	タマネギ	べと病	—	やや多
モモ	灰星病	やや早	並	イチゴ	ハダニ類	—	やや少
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	—	やや多				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 麦の生育は、概ね平年並で推移している。

イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃以上でかつ、日最低気温 10℃以上、湿度 80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成好適日および子とう胞子飛散好適日は 2 月中旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 気温が高く推移した場合には、出穂期が前進化するため防除時期を逸しないよう注意する。
- エ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入すると「規格外」となる。
- オ. 令和 5 年度植物防疫情報第 9 号（令和 6 年 3 月 18 日発表）「麦類赤かび病の防除の徹底について」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年よりやや早い。
- イ. 4 月 4 日発表の 1 か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3 野 菜

(1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 4 月 3 日の巡回調査によると、ナスでは発生を認めず、トマト及びイチゴでの発生圃場率はそれぞれ 50.0%、22.2%と、いずれも平年（ナス：4.0%、トマト：40.8%、イチゴ：19.6%）並であった。
- イ. 4 月 4 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(2) タマネギベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 4月3日の巡回調査によると、発生圃場率は38.5%で平年(44.4%)並であった。
- イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。
- イ. 令和5年度植物防疫情報第10号(令和6年3月26日発表)「タマネギベと病に注意してください」参照。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 4月3日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(40.9%)より低かった。
- イ. 4月4日発表の1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

